「米国のPWR 及び BWR における放射線ソースターム低減によるクリティカルパス低減の 経験」

Ms. Patricia ROBINSON (NP Energy, 米国)

米国では、原子力は、天然ガスや石油エネルギーとの競争が激しくなっている。このような状況で、原子炉の経済的な運転を最大限にすることへの阻害要因について、プロセスを継続的に検討することが、安全で有益な運転を維持するのに必須である。より良い運転管理の目標は、組織の有効活用と資源の節約である。この発表では、コスト対効果の良いソースターム低減活動の選択が、線量低減及び停止時クリティカル・パスの低減にどのように影響したかについて報告しており、ロスアラモス国立研究所(LANL)が開発したPRC01M 樹脂について、ターキーポイント3、4号機、VC サマー、モンティセロ、バーモントヤンキー、ピーチボトム2、3号機の各発電所に適用した例などを紹介している。



